

事故報告(注意喚起)

九州地方整備局 港湾空港部
工事安全推進室

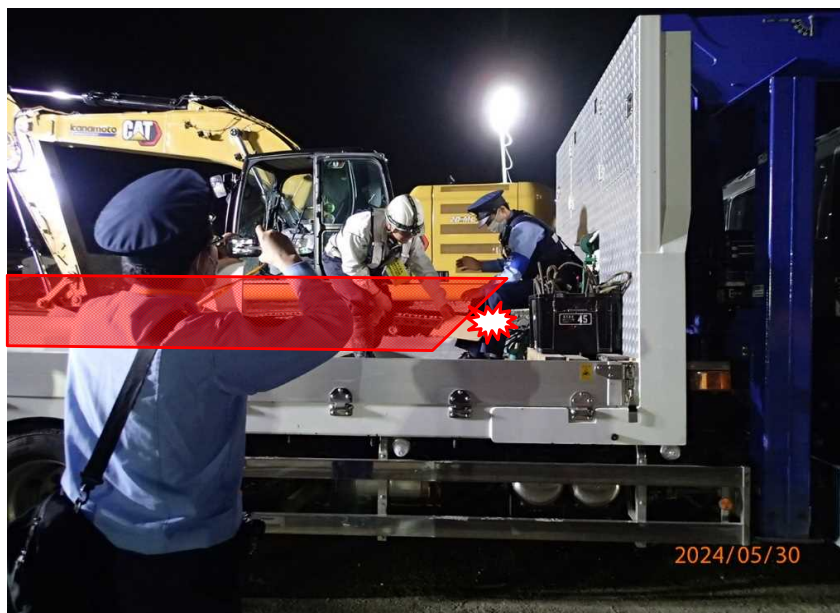
管内事務所の工事で発生しました事故について、事故発生の原因及び再発防止対策を取りまとめたので情報提供致します。

I. 事故概要

発生日時 令和6年5月29日(水)23時25分頃
作業内容 仮設工 敷鉄板(1.5m*6.0m)の返却に伴う積込作業
被災状況 左下腿挫創

II. 事故発生状況

- 返却する敷鉄板(1.5m*6.0m)を0.7BH(クレーン仕様)で10tユニック車への積込作業を行っていたところ、荷台で敷鉄板の積込み補助を行っていた運転手の左足の下腿に敷鉄板がズレて接触し被災した。



事故発生状況の再現写真

Ⅲ. 事故発生の原因

- 1) 本来、1次下請け業者の作業員が作業すべき敷鉄板の積み込み作業を補助しようと運転手自ら荷台に上り作業した。
【不適切な現場作業員の配置】
- 2) 作業における合図の確認が徹底されていなかった。
【合図確認の不徹底】
- 3) 作業手順書に介錯ロープ使用の記載がなかったため、介錯ロープを使用せず、直接手で作業した。
【作業手順書の不備】

Ⅳ. 再発防止対策

- 1) 運搬業者の運転手は積込旋回範囲外に配置し、積み込みの補助はさせないことを作業手順書に新たに記載し、作業員全員に周知徹底する。なお、運搬業者の運転手等、施工体制外の入場者への周知は現場入場時に元請職員より行う。
現地KY時に作業員全員に対して作業手順書の周知徹底を行い適切な現場作業配置について、元請及び各現場の職長が現場で直接確認を行う。
【作業手順の改善】
- 2) 合図者は、グーパー合図(パーは止まって、グーは了解。)によりバックホウオペレータと合図の確認方法を徹底する。
【合図確認の徹底】
- 3) 元請職員と各現場の職長等により、敷鉄板積み込み作業における介錯ロープの使用はもとより、その他作業における危険箇所を洗い出し、作業手順書の作成を行い安全教育訓練で作業員全員へ周知徹底を図る。
作業手順書どおりに実施されているか、元請職員及び各現場の職長が現場で直接確認を行う。
作業手順書に記載のない予定外作業等が発生した場合は、作業を一時中止して、元請職員と各現場の職長等が協力して作業手順書を作成し、作業員に周知後作業を再開する。
【作業手順書の作成と周知徹底】
- 4) 本社及び九州支店の安全担当部長の立会いの下、緊急安全訓練を、元請・下請合同で実施し、事故内容及び再発防止対策の工事関係者全員に周知徹底する。
施工再開前に、九州支店の安全担当部長による元請・下請の工事関係者全員参加の緊急安全大会を開催、当事務所から所長又は副所長が参加し安全対策について注意喚起を行う。
施工再開後、敷鉄板等の運搬(荷積み・荷卸し)作業については、作成した作業手順書に基づき、同作業に従事する作業員全員が一連の作業を訓練として行い、本社及び九州支店の安全担当部長は作業手順書どおりに実施できているか確認する。
さらに、九州支店の安全担当部長による安全パトロール(2回/月)時に、再発防止策が定着しているか確認し、その都度結果を発注者へ報告する。
施工計画書に示す緊急時の連絡体制及び対応に関して、発注者への連絡を怠ったことから、緊急時の連絡対応について元請・下請合同で情報伝達訓練を行う。
【安全意識の向上対策】